



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Masaki OKUYAMA, et al.

GAU: 1616

SERIAL NO: 10/748,148

FILED: December 31, 2003

FOR: COSMETIC COMPOSITION FOR EYELASHES

REQUEST FOR PRIORITY

COMMISSIONER FOR PATENTS
ALEXANDRIA, VIRGINIA 22313

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number , filed , is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date(s) of U.S. Provisional Application(s) is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e):
Application No. Date Filed

- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
Japan	2003-183322	June 26, 2003

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and
- ☐ (B) Application Serial No.(s)
☐ are submitted herewith
☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.
Norman F. Oblon

Frederick D. Vastine
Registration No. 27,013

Customer Number
22850

Tel. (703) 413-3000
Fax. (703) 413-2220
(OSMMN 05/03)

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 6月26日

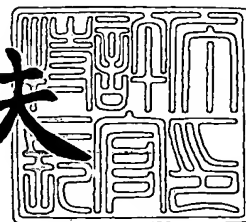
出願番号
Application Number: 特願2003-183322
[ST. 10/C]: [JP2003-183322]

出願人
Applicant(s): 株式会社コーセー

2004年 1月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3109652

【書類名】 特許願

【整理番号】 P0001474

【提出日】 平成15年 6月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61K 7/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都北区栄町 4 8 番 1 8 号 株式会社コーセー研究本部内

【氏名】 奥山 雅樹

【発明者】

【住所又は居所】 東京都北区栄町 4 8 番 1 8 号 株式会社コーセー研究本部内

【氏名】 小杉 昌輝

【特許出願人】

【識別番号】 000145862

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋 3 丁目 6 番 2 号

【氏名又は名称】 株式会社コーセー

【代表者】 小林 保清

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-195837

【出願日】 平成14年 7月 4日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 054759

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 睫毛化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 次の成分（A）、（B）；

（A）太さが 0. 1 ～ 1 2 デニール、長さが 0. 1 ～ 3 mm のポリプロピレン繊維

（B）油溶性樹脂

を含有することを特徴とする睫毛化粧料。

【請求項 2】 成分（A）のポリプロピレン繊維の配合量が 0. 1 ～ 1 0 質量％であることを特徴とする請求項 1 に記載の睫毛化粧料。

【請求項 3】 成分（A）のポリプロピレン繊維の表面を無水ケイ酸で処理したことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の睫毛化粧料。

【請求項 4】 成分（A）のポリプロピレン繊維の表面をフッ素化合物で処理したことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の睫毛化粧料。

【請求項 5】 成分（B）の油溶性樹脂がキャンデリラワックスより分別して得られ、軟化点が 3 5 ～ 5 5 ℃ の樹脂分であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の睫毛化粧料。

【請求項 6】 成分（B）の油溶性樹脂がキャンデリラワックスより分別して得られ、軟化点が 3 5 ～ 5 5 ℃ の樹脂分であり、且つその配合量が 0. 5 ～ 2 0 質量％であることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の睫毛化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、睫毛化粧料において、睫毛を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果（ロングラッシュ効果）及びその持続性に優れ、また使用性が良く、均一な化粧膜が得られ、安定性も良好な睫毛化粧料に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

繊維を配合する従来の化粧料の代表的なものとしては、睫毛化粧料があげられ

る。睫毛化粧料は、睫毛の上にカールすることや睫毛を太く、長くみせることで、目元をはっきりさせるといった化粧効果をもつものである。

従来、これらの睫毛化粧料は、固形状油分、例えばワックス、及び粉体、被膜形成剤、水溶性高分子等を中心に構成されており、化粧品として求められる様々な使用性、使用感、及び機能性をもたせるために、種々の剤型、及び原料の配合検討が行われてきた。例えば、機能性の点については、乳化タイプの睫毛化粧料が挙げられ、これらは比較的融点の低いワックスや樹脂及び種々の被膜形成剤の配合量を増加させることにより、睫毛への密着性が高まるため、睫毛を太く目立たせるといった化粧効果や睫毛の上にカールしたまま固定することで目元をきわだたせるといった化粧効果を高めることができる（例えば、特許文献 1、特許文献 2 参照）。また、ナイロン、レーヨン等の繊維を配合することにより、睫毛を長くみせ、使用部位を目立たせるといった化粧効果を演出することもできる（例えば特許文献 3、特許文献 4）。さらに、色調を改善することで目元を際立たせ、立体感のある容貌を作り出すといった試みもなされている（例えば、特許文献 5）。

【0 0 0 3】

【特許文献 1】

特開平 1 1 - 1 0 6 3 1 3 号公報

【特許文献 2】

特開 2 0 0 1 - 3 1 5 2 6 号公報

【特許文献 3】

特開平 9 - 2 6 3 5 1 8 号公報

【特許文献 4】

特開 2 0 0 1 - 1 5 4 9 3 2 号公報

【特許文献 5】

特開 2 0 0 1 - 2 7 8 7 4 4 号公報

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来使用されてきたナイロンやレーヨン等の繊維は、ワックス等の固形成分が多く配合される剤型においては、繊維が曲がってしまい睫毛にそってまっすぐに塗布することが難しく、それにより十分なロングラッシュ効果が得

られず、化粧膜も均一なものが得られない場合があった。また、化粧料の付着力が十分でないと、経時で繊維が睫から剥がれ落ちるといった現象が生じ、化粧持続性についても問題となる場合があった。このため、十分なロングラッシュ効果を得るために配合量を増加させたり、繊維を太くしたりすることも考えられるが、配合量の増加や繊維が太くなり過ぎると、なめらかな使用感が失われ、化粧膜の均一性及び化粧効果の持続性といった点で満足いくものが得られなかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】

そこで本発明者らは、上記課題を解決するために鋭意研究した結果、成分（A）太さが0.1～12デニール、長さが0.1～3mmのポリプロピレン繊維と、成分（B）油溶性樹脂とを含有することにより、睫を長く見せ目元を際立たせるといった化粧効果（ロングラッシュ効果）に優れ、化粧効果の持続性が高く、また使用性が良く、均一な化粧膜が得られ、安定性にも優れた睫用化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明は、成分（A）太さが0.1～12デニール、長さが0.1～3mmのポリプロピレン繊維、成分（B）油溶性樹脂を含有する睫用化粧料に関するものである。

【0005】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を詳細に説明する。

本発明の睫用化粧料に使用される成分（A）の太さが0.1～12デニール、長さが0.1～3mmのポリプロピレン繊維は、プロピレン重合体を繊維状にした合成繊維であり、その太さは、0.1～12デニール（以下、単に「D」と示す。）であり、好ましくは0.5～10Dである。太さが0.1D未満であると、睫を太く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果の点において、12Dを超えると、使用性と均一な化粧膜の形成の点において良好なものが得られない。また、ポリプロピレン繊維の長さは、0.1～3mmであり、好ましくは0.5～2mmである。長さが0.1mm未満であると、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果の点において、3mmを超えると使用性と均一な化粧膜の形

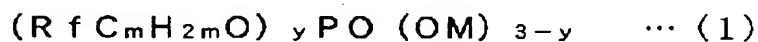
成の点において良好なものが得られない。

本発明に使用される成分 (A) のポリプロピレン繊維は、必要に応じて一般油剤、シリコン油、フッ素化合物、界面活性剤、及び無水ケイ酸等の粉体類で処理したものも使用することができる。特に、無水ケイ酸やフッ素化合物で表面処理した繊維は分散性、安定性及び化粧膜の均一性の点で最も好ましい。無水ケイ酸で繊維の表面を処理する方法としては、特に制限されないが、例えば、水中に分散したコロイダルシリカと繊維を混合し、その後、ろ過、乾燥する方法があげられる。繊維の表面を処理するフッ素化合物は、繊維を処理して撥水性及び撥油性が得られるものであれば特に限定されないが、特にパーフルオロアルキル基含有エステル、パーフルオロアルキルシラン、パーフルオロポリエーテル、パーフルオロアルキル基を有する重合体が好適に用いられる。

パーフルオロアルキル基含有エステルとしては、下記一般式 (1)

【0006】

【化1】



【0007】

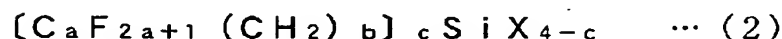
(但し、式中 Rf は炭素数 3 ~ 21 のパーフルオロアルキル基又はパーフルオロオキシアルキル基を示し、直鎖状あるいは分岐状であって、単一鎖長のものであっても、混合鎖長のものであってもよい。m は 1 ~ 12 の整数を示し、y は 1 ~ 3 の数を示す。M は同一又は異なっても良く、水素、アルカリ金属、アンモニウム又は置換アンモニウム等を示す。)

で表されるパーフルオロアルキル基含有エステルが挙げられ、例えば、パーフルオロアルキルリン酸エステル・ジエタノールアミン塩、ジヘプタデカフルオロデシルリン酸等、パーフルオロアルキル基を有する化合物 (例えば、アサヒガード AG-530 (旭硝子社製)) が挙げられる。

パーフルオロアルキルシランとしては、下記一般式 (2)

【0008】

【化2】



【0009】

(但し、式中、aは1～12の整数を示し、bは1～5の整数を示し、cは1～3の整数を示し、Xは同一又は異なっても良く、アルコキシ基、ハロゲン原子又はアルキル基を示す。ただし、すべてのXがアルキル基の場合を除く)で表わされるパーフルオロアルキルシラン(例えば、LS-160、LS-360、LS-912、LS-1080、LS-1090、LS-1465(以上、信越化学工業社製)、XC95-418、XC95-466、XC95-467、XC95-468、XC95-469、XC95-470、XC95-471、XC95-472(以上、東芝シリコン社製))が挙げられる。

パーフルオロポリエーテルとしては、下記一般式(3)

【0010】

【化3】



【0011】

(式中、R¹、R²、R³、R⁴およびR⁵は同一又は異なっても良く、それぞれフッ素原子、パーフルオロアルキル基又はオキシパーフルオロアルキル基を示し、p、q、及びrは分子量500～100,000を与える0以上の整数を示す。ただし、p=q=r=0となることはない)で表されるパーフルオロポリエーテル(例えば、FOMBLIN HC-04、同HC-25、同HC-R(以上、アウシモント社製)、デムナムS-20、同S-65、同S-100、同S-200(以上、ダイキン工業社製))等が挙げられる。

パーフルオロアルキル基を有する重合体としては、例えばパーフルオロアルキル基を有するアクリレート又はメタアクリレートの単独重合体；パーフルオロアルキル基を有するアクリレート又はメタアクリレートとアクリル酸エステル、無水マレイン酸、クロロプレン、ブタジエン、メチルビニルケトン等の重合し得る化合物との共重合体；下記化学式(4)～(6)

【0012】

【化4】



【0013】

【化5】



【0014】

【化6】



【0015】

で表されるパーフルオロアルキル基を有する重合可能な化合物の重合体又は共重合体又はこれら重合体と塩化ビニル、酢酸ビニル、フッ化ビニル、エチレン、ハロゲン化ビニリデン、アクリロニトリル、スチレン、 α -メチルスチレン、P-メチルスチレン、アクリルアミド、メタクリルアミド、ジアセトンアクリルアミド、メチロール化ジアセトンアクリルアミド、N-メチロールアクリルアミド、ビニルアルキルエーテル、ハロゲン化アルキルビニルエーテル、イソプレン、グリシジルアクリレートなどのパーフルオロアルキル基を有さない重合可能な化合物の1種又は2種以上との共重合体などが挙げられる。

繊維をフッ素化合物で処理する方法としては、特に制限されず公知の方法を用いることができるが、例えば、フッ素化合物としてパーフルオロアルキルリン酸エステル・ジエタノールアミン塩を用いる場合は、繊維の1種又は2種以上の混合物に水を加えてスラリー状態とし、一方パーフルオロアルキルリン酸エステル・ジエタノールアミン塩を水に加え攪拌して0.1～10質量%（以下、単に「%」で示す）としたものを、前記スラリーに徐々に注加・混合した後酸性とし、常温又は高温静置して、洗浄、濾過、乾燥すればよい。また本発明の効果を損なわない範囲で、フッ素化合物以外のシリコン、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル、ワックスなどの他のコーティング剤で前処理または同時に処理してもよい。本発明に使用される成分(A)のポリプロピレン繊維の表面処理量は、0.1～20%が化粧料中への分散性の点で好ましい。

【0016】

本発明の睫毛化粧料に使用される成分（A）のポリプロピレン繊維の配合量は、0.1～10%が好ましく、更に好ましくは0.5～5%である。この範囲であれば、睫毛を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果、及び化粧膜の均一性といった点で満足の行くものが得られる。

【0017】

本発明の睫毛化粧料に使用される成分（B）の油溶性樹脂は、油剤に溶解し、化粧膜としたときに皮膜を形成するものであれば特に制限されず、いずれのものも使用される。具体的には、ロジン酸ペンタエリスリット等のテルペン系樹脂、トリメチルシロキシケイ酸、キャンデリラレジン（ここで、キャンデリラレジンとは、キャンデリラワックスを有機溶剤にて分別抽出して得られる樹脂分で、該樹脂分が好ましくは65%以上、更に好ましくは85%以上の割合で含有され、軟化点が好ましくは35～55℃のものである。）、アクリル変性シリコーン、酢酸ビニル系樹脂、ポリビニルイソブチルエーテル、ポリイソブチレン等が挙げられ、これらを一種または二種以上用いることができる。これらの樹脂のなかでも、テルペン系樹脂、キャンデリラレジンが、睫毛を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果及び化粧効果の持続性の点で特に好ましい。また、キャンデリラレジンを用いることにより、更にポリプロピレン繊維と睫毛との付着性が向上する。

【0018】

本発明の睫毛化粧料に使用される成分（B）の油溶性樹脂の配合量は、0.5～20%が好ましく、更に好ましくは1～15%である。この範囲であれば、睫毛を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果の持続性の点で満足のいくものが得られる。

【0019】

本発明の睫毛化粧料は、上記の必須成分の他に、通常化粧料に使用される成分、例えば、付着性や持続性、安定性を向上させる効果を持つ被膜形成性ポリマーエマルションや、感触調整や着色の目的で粉体成分や、基材、エモリエント成分として油性成分、保湿、粉体分散剤として水性成分、粉体分散、感触調整の為の

界面活性剤、紫外線吸収剤、保湿剤、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ビニルピロリドン・酢酸ビニル共重合体等の水溶性被膜形成性樹脂、褪色防止剤、酸化防止剤、消泡剤、美容成分、防腐剤、香料、などを本発明の効果を損なわない範囲で適宜配合することができる。

【0020】

被膜形成性ポリマーエマルションとしては、高分子化合物を水性溶媒に分散してあるもので、通常化粧品に使用されるものであれば特に制限されず、いずれのものも使用することができる。例えば、(メタ)アクリル酸アルキル重合体エマルション、(メタ)アクリル酸アルキル共重合体エマルション、(メタ)アクリル酸・(メタ)アクリル酸アルキル共重合体エマルション、(メタ)アクリル酸アルキル・スチレン共重合体エマルション、酢酸ビニル重合体エマルション、酢酸ビニル含有共重合体エマルション、ビニルピロリドン・スチレン共重合体エマルション、シリコーン含有重合体エマルション、シリコーン含有共重合体エマルション等が挙げられる。これらのポリマーエマルションは、必要に応じ、1種又は2種以上を使用することができる。

【0021】

油性成分としては、動物油、植物油、合成油等の起源、及び、固形油、半固形油、液体油、揮発性油等の性状を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、硬化油類、エステル油類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコーン油類、フッ素系油類、ラノリン誘導体類、油性ゲル化剤類等が挙げられる。具体的には、流動パラフィン、スクワラン、ワセリン、ポリブテン、パラフィンワックス、セレシンワックス、マイクロクリスタリンワックス、ポリエチレンワックス、エチレン・プロピレンコポリマー、モンタンワックス、フィッシュアトロプシュワックス等の炭化水素類、モクロウ、オリーブ油、ヒマシ油、ミンク油、マカデミアンナッツ油等の油脂類、ミツロウ、カルナウバワックス、キャンデリラワックス、ホホバ油、ゲイロウ等のロウ類、リンゴ酸ジイソステアリル、セチルイソオクタネート、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリオクタン酸グリセリル、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、トリベヘン酸グリセリル、ジオクタン酸ネ

オペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(コレステリル・ベヘニル・オクチルドデシル)等のエステル類、ステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、ベヘン酸、イソステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸類、ステアリルアルコール、セチルアルコール、ラウリルアルコール、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール、ベヘニルアルコール等の高級アルコール類、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン、ポリオキシアルキレン・アルキルメチルポリシロキサン・メチルポリシロキサン共重合体、アルコキシ変性ポリシロキサン、フッ素変性オルガノポリシロキサン等のシリコン類、パーフルオロデカン、パーフルオロオクタン、パーフルオロポリエーテル等のフッ素系油剤類、ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラノリンアルコール等のラノリン誘導体、デキストリン脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル、デンプン脂肪酸エステル、1,2-ヒドロキシステアリン酸、イソステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム等の油性ゲル化剤類等が挙げられる。

【0022】

粉体成分としては、板状、紡錘状、針状等の形状、粒子径、多孔質、無孔質等の粒子構造等により特に限定されず、無機粉体類、光輝性粉体類、有機粉体類、色素粉体類、複合粉体類、等が挙げられる。具体的には、コンジョウ、群青、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化アルミニウム、酸化セリウム、二酸化珪素、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、マイカ、合成マイカ、合成セリサイト、セリサイト、タルク、カオリン、無水ケイ酸、炭化珪素、硫酸バリウム、ベントナイト、スメクタイト、窒化硼素等の無機粉体類、オキシ塩化ビスマス、雲母チタン、酸化鉄コーティング雲母、酸化鉄雲母チタン、有機顔料処理雲母チタン、アルミニウムパウダー等の光輝性粉体類、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、N-アシルリジン、ナイロン等の有機粉体類、有機タール系顔料、有機色素のレーキ顔料等の色素粉体類、微粒子酸化

チタン被覆雲母チタン、微粒子酸化亜鉛被覆雲母チタン、硫酸バリウム被覆雲母チタン、酸化チタン含有二酸化珪素、酸化亜鉛含有二酸化珪素等の複合粉体、ポリエチレンテレフタレート・アルミニウム・エポキシ積層末、ポリエチレンテレフタレート・ポリオレフィン積層フィルム末、ポリエチレンテレフタレート・ポリメチルメタクリレート積層フィルム末等が挙げられ、これらを1種又は2種以上を用いることができる。また、これら粉体は1種又は2種以上の複合化したものを用いても良く、フッ素化合物、シリコン系油剤、金属石ケン、ロウ、界面活性剤、油脂、炭化水素等を用いて公知の方法により表面処理を施したのものである。

【0023】

水性成分としては、水に可溶な成分であれば何れでもよく、例えば、エチルアルコール、イソプロピルアルコール等のアルコール類、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリエチレングリコール等のグリコール類、グリセリン、ジグリセリン、ポリグリセリン等のグリセロール類、ソルビトール、マルチトール、ショ糖、でんぷん糖、ラクチトール等の糖類、グアーガム、コンドロイチン硫酸ナトリウム、ヒアルロン酸ナトリウム、アラビアガム、アルギン酸ナトリウム、カラギーナン、メチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシビニルポリマー、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリアクリル酸ナトリウム等の水溶性高分子、塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、乳酸ナトリウム等の塩類、アロエベラ、ハマメリス、キュウリ、レモン、ラベンダー、ローズ等の植物抽出液等及び水が挙げられる。

【0024】

界面活性剤としては、化粧品一般に用いられている界面活性剤であればいずれのものも使用でき、非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、カチオン性界面活性剤、両性界面活性剤等が挙げられる。非イオン界面活性剤としては、例えば、グリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリグリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、プロピレングリコール脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビタン脂肪酸

エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビトールの脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリアルキレングリコール脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、グリセリンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ラノリンのアルキレングリコール付加物、ポリオキシアルキレンアルキル共変性オルガノポリシロキサン、ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン等が挙げられる。アニオン界面活性剤としては、例えば、ステアリン酸、ラウリン酸のような脂肪酸の無機及び有機塩、アルキルベンゼン硫酸塩、アルキルスルホン酸塩、 α -オレフィンスルホン酸塩、ジアルキルスルホコハク酸塩、 α -スルホン化脂肪酸塩、アシルメチルタウリン塩、N-メチル-N-アルキルタウリン塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩、アルキル燐酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル燐酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル燐酸塩、N-アシルアミノ酸塩、N-アシル-N-アルキルアミノ酸塩、 o -アルキル置換リンゴ酸塩、アルキルスルホコハク酸塩等が挙げられる。カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルアミン塩、ポリアミン及びアルカノールアミン脂肪酸誘導体、アルキル四級アンモニウム塩、環式四級アンモニウム塩等が挙げられる。両性界面活性剤としては、アミノ酸タイプやベタインタイプのカルボン酸型、硫酸エステル型、スルホン酸型、リン酸エステル型のものがあり、人体に対して安全とされるものが使用できる。例えば、N, N-ジメチル-N-アルキル-N-カルボキシルメチルアンモニウムベタイン、N, N-ジアルキルアミノアルキレンカルボン酸、N, N, N-トリアルキル-N-スルフォアルキレンアンモニウムベタイン、N, N-ジアルキル-N, N-ビス(ポリオキシエチレン硫酸)アンモニウムベタイン、2-アルキル-1-ヒドロキシエチル-1-カルボキシメチルイミダゾリニウムベタイン、レシチン等が挙げられる。

【0025】

紫外線吸収剤としては、例えばベンゾフェノン系、PABA系、ケイ皮酸系、サリチル酸系、4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン、オキシベンゾン等、保湿剤としては、例えばタンパク質、ムコ多糖、コラーゲン、

エラスチン、ケラチン等、酸化防止剤としては、例えば α -トコフェロール、アスコルビン酸等、美容成分としては、例えばビタミン類、消炎剤、生薬等、防腐剤としては、例えばパラオキシ安息香酸エステル、フェノキシエタノール等が挙げられる。

【0026】

本発明の睫毛化粧料としては、睫毛化粧料以外のアイメイク化粧料、例えば、アイブロー、アイカラー、アイライナーにも応用できるが、特にマスカラ等の睫毛化粧料が好ましい。また、本発明の化粧料の剤型としては、油性型、乳化型等があげられ、形態としては、クリーム状、ゲル状、液状等が挙げられるが、中でもゲル状が好ましく、外観は、透明、半透明、不透明それぞれの化粧料として使用することができる。

【0027】

【実施例】

以下に実施例をあげて本発明を詳細に説明する。尚、これらは本発明を何ら限定するものではない。

実施例 1～5 及び比較例 1～4：O/W型マスカラ

表 1 に示す処方のマスカラを調製し、睫毛を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果、及びその化粧効果の持続性、塗布時の化粧のしやすさ（使用性、使用感）、及び仕上がり膜の均一性について下記の方法により官能評価を行った。その結果もあわせて表 1 に示す。

【0028】

【表 1】

(%)

No. 成 分	実施例					比較例			
	1	2	3	4	5	1	2	3	4
(1) ステアリン酸	3	3	3	3	3	3	3	3	3
(2) カルナウバワックス	5	5	5	1	5	5	6	5	5
(3) キャンデリラレジン*1	5	5	5	10	1	5	-	5	5
(4) セタノール	1	1	1	1	1	1	1	1	1
(5) 精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
(6) トリエタノールアミン	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
(7) ポリプロピレン繊維*2	2	0.5	5	2	2	-	2	-	-
(8) ポリプロピレン繊維*3	-	-	-	-	-	-	-	-	2
(9) ナイロン繊維*4	-	-	-	-	-	2	-	-	-
(10) レーヨン繊維*5	-	-	-	-	-	-	-	2	-
(11) アクリル酸アルキル 共重合体エマルション *6	40	40	40	40	40	40	40	40	40
(12) パラオキシ安息香酸メ チル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
(13) カミツレエキス	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
(14) 黒酸化鉄	8	8	8	8	8	8	8	8	8
(15) 無水ケイ酸*7	5	5	5	5	5	5	5	5	5
評価項目及び判定結果									
a 化粧効果 (ロングラッシュ効果)	◎	○	◎	◎	◎	△	○	△	○
b 化粧効果の持続	◎	◎	◎	◎	○	○	×	○	△
c 化粧のしやすさ	◎	◎	○	○	◎	○	△	○	×
d 仕上がり膜の均一性	◎	◎	○	◎	◎	△	△	△	△

【0029】

*1: 軟化点 47 ~ 48℃

*2: 6D、1mm、0.5%無水ケイ酸処理

*3: 20D、4mm、0.5%無水ケイ酸処理

*4: 6D、1mm、未処理

*5: 6D、1mm、未処理

*6: 固形分 40%

*7: サイリシア 550 (富士シリシア化学製)

【0030】

(製法)

実施例 1～5 及び比較例 1～4

- A. 成分 (5)～(15) を均一に混合し、80℃ に加熱する。
- B. 成分 (1)～(4) を加熱溶解 (80℃) する。
- C. A に B を加え乳化する。
- D. C を容器に充填して製品とする。

【0031】

(評価方法)

10 名の官能検査パネルにより、各試料を下記 a～d について、(1) 絶対評価基準を用いて 7 段階に評価し、各試料ごとの評点の平均値を (2) 4 段階判定基準を用いて判定した。尚、評価項目 b については、試料を睫に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、12 時間後の化粧効果について評価した。

【0032】

(評価項目)

- a. 化粧効果 (ロングラッシュ効果)
- b. 化粧効果の持続
- c. 化粧のしやすさ
- d. 仕上がり膜の均一性

(1) 絶対評価基準

(評点) : (評価)

6 : 非常に良い

5 : 良い

4 : やや良い

3 : 普通

2 : やや悪い

1 : 悪い

0 : 非常に悪い

(2) 4 段階判定基準

5 点を超える : 非常に良好 : ◎

3 点を超えて 5 点以下 : 良好 : ○

2点を超えて3点以下: やや不良 : △

2点以下 : 不良 : ×

【0033】

表1の結果から明らかなように、本発明品である実施例1～5のマスカラは、比較例1～4のマスカラに比較し、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果、及びその持続性、化粧のしやすさ、仕上がり膜の均一性のすべての面で、はるかに優れた特性を有していることがわかる。

一方、ポリプロピレン繊維を配合せず、ナイロン繊維を配合した比較例1、レーヨン繊維を配合した比較例3では、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果及び仕上がり膜の均一性の点で満足のいくものが得られなかった。また、ポリプロピレン繊維が太く、長いものを使用した比較例4では、化粧のしやすさ及び仕上がり膜の均一性の点で、また、油溶性樹脂成分を配合しない比較例2では、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果の持続、化粧のしやすさ、及び仕上がり膜の均一性の点で満足のいくものが得られなかった。

【0034】

実施例6 油性マスカラ

(成分)	(%)
(1) ロジン酸ペンタエリスリット	9
(2) ポリイソブチレン*8	1
(3) 軽質流動イソパラフィン	53.4
(4) ポリエチレンワックス	10
(5) デキストリン脂肪酸エステル	5
(6) ポリプロピレン繊維*9	10
(7) ベンガラ	5
(8) タルク*10	5
(9) オランダカラシエキス	0.5
(10) フェノキシエタノール	1
(11) 香料	0.1

*8: 分子量10万

* 9 : 1 D、2 mm、5 % パーフルオロアルキルリン酸エステル・ジエタノールアミン塩処理

* 10 : 2 % ジメチルポリシロキサン処理

(製法)

A. 成分 (1) ~ (5) を加熱溶解し、成分 (6) ~ (11) を加えて均一に混合する。

B. A を容器に充填して製品とする。

以上のようにして得られたマスカラは、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果に優れ、化粧効果の持続、化粧のしやすさ、及び化粧膜の均一性に優れたものであった。

【0035】

実施例 7 W/O 型マスカラ

(成分)	(%)
(1) トリメチルシロキシケイ酸	20
(2) デカメチルシクロペンタシロキサン	41.4
(3) ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体 * 11	5
(4) 天然ビタミン E	0.5
(5) パラオキシ安息香酸エチル	1
(6) 精製水	15
(7) ポリプロピレン繊維 * 12	1
(8) ポリプロピレン繊維 * 13	1
(9) チタン・酸化チタン焼結物 * 14	10
(10) ベンガラ被覆雲母チタン	5
(11) ポリビニルピロリドン	0.1

* 11 : シリコン KF-6017 (信越化学工業社製)

* 12 : 10 D、3 mm、未処理

* 13 : 6 D、1 mm、未処理

* 14 : T i l a c k D (赤穂化成社製)

(製法)

A. 成分(1)～(5)を混合し、成分(6)～(11)を加えて均一に混合する。

B. Aを容器に充填して製品とする。

以上のようにして得られたマスカラは、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果に優れ、化粧効果の持続、化粧のしやすさ、及び化粧膜の均一性に優れたものであった。

【0036】

実施例8 油性アイブロウ

(成分)	(%)
(1) ポリイソブチレン*15	2
(2) 軽質流動イソパラフィン	70.4
(3) 流動パラフィン	2
(4) ポリプロピレン繊維*16	15
(5) ナイロン繊維*17	0.1
(6) シリル化処理無水ケイ酸*18	5
(7) ローズマリーエキス	0.5
(8) エタノール	5

*15:分子量 5万

*16:0.5D、0.5mm、未処理

*17:0.5D、0.5mm、未処理

*18:AEROSIL R972 (日本アエロジル社製)

(製法)

A. 成分(1)～(3)を加熱溶解し、成分(4)～(8)を加えて均一に混合する。

B. Aを容器に充填して製品とする。

以上のようにして得られたアイブロウは、使用部位である眉を整えはっきりさせるといった化粧効果に優れ、化粧効果の持続、化粧のしやすさ、及び化粧膜の均一性に優れたものであった。

【0037】

実施例 9 油性マスカラ

(成分)	(%)
(1) ロジン酸ペンタエリスリット	9
(2) キャンデリラレジン*18	1
(3) 軽質流動イソパラフィン	53.4
(4) ポリエチレンワックス	10
(5) デキストリン脂肪酸エステル	5
(6) ポリプロピレン繊維*9	10
(7) チタン・酸化チタン焼結物*14	5
(8) タルク*10	5
(9) オランダカラシエキス	0.5
(10) フェノキシエタノール	1
(11) 香料	0.1

*18: キャンデリラワックスから分別抽出した樹脂、樹脂分 65%、遊離アルコール 18%、遊離脂肪分 9%、エステル分 5%、炭化水素分 3% であり、軟化点は 40~41℃ である。

(製法)

A. 成分 (1) ~ (5) を加熱溶解し、成分 (6) ~ (11) を加えて均一に混合する。

B. A を容器に充填して製品とする。

以上のようにして得られたマスカラは、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果に優れ、化粧効果の持続、化粧のしやすさ、及び化粧膜の均一性に優れたものであった。

【0038】

【発明の効果】

本発明の睫用化粧料は、睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果、及びその持続性に優れ、かつ使用性、使用感において、化粧がしやすく、化粧膜の均一性にも優れるものである。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 睫を長く見せ、目元を際立たせるといった化粧効果（ロングラッシュ効果）及びその持続性に優れ、また使用性が良く、均一な化粧膜が得られ、安定性も良好な睫用化粧料に関する。

【解決手段】 （A）太さが0. 1～1 2 デニール、長さが0. 1～3 mmのポリプロピレン繊維、（B）油溶性樹脂とを含有する睫用化粧料を提供するものである。

【選択図】 なし

特願 2003-183322

出願人履歴情報

識別番号

[000145862]

1. 変更年月日

1991年 8月23日

[変更理由]

名称変更

住 所

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

氏 名

株式会社コーセー

89/18/50